あいづね

2008.3.14
第135号

発行
福島県市町村教育委員会連絡協議会
北会津支会
耶麻支会
両沼支会

編集
福島県教育庁会津教育事務所

編集協力
小・中学校長会

成人式に思う

会津教育事務所
業務次長　本田　樹

昨年の十二月に、七年の間、大切に保管していた二十七通の手紙を投函しました。

「・・・（略）・・・これは、平成十二年十一月十三日に、当時の六年三組の授業（書写）で、あなたに書いてもらった『二十歳の自分へ』という手紙です。

あの時の約束で、成人式を迎える時期になったら送付することにしていたことを覚えていますか。これが、その時の手紙です。

十三歳当時のあなたは、二十歳のあなたの姿を、どう見ていたのでしょうか。まもなく成人式を迎えるこの時期に、ちょっと自分の生き方を見つめて頂ければ、送付した甲斐があります。

・・・（略）・・・。」

某小学校の教頭時代、分科の授業で担当した二十七名の子どもたちに、二十歳の自分宛の手紙を書いてもらい時期が来たら投函する約束をしました。ようやくそれを実現させることができました。

さて、今日、少子高齢化社会の到来や産業・経済の構造的変化、雇用形態の多様化・流動化などを背景として、将来への不透明さが増幅してきました。ともに、就職・進学を問わず、進路を巡る環境は大きく変化しており、フリーターや「ニート」が大きな社会問題となっています。

このような状況の中では、しっかりとした勤労観、職業観を身に付け、直面するであろう様々な課題に柔軟にかつたくましく対応していかなくてはなりません。社会人・職業人として自立できるようにするキャリア教育の推進が強く求められているのです。

私たちは、子どもたちの思いや夢の実現のために、子どもたちが「生きる力」を身に付け、明確な目的意識を持って日々の学習に取り組む姿勢や、社会の変化に対応し、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力を育んでいくことをしっかり受け止めていかなくてはならないでしょう。

子どもたちは今どうしているか楽しみです。

各種受賞紹介

敬称略

文部科学大臣表彰
- **地方教育行政功労者表彰**
  - 前会津若松市教育委員会教育長　高石　寛治
- **優秀教員表彰**
  - 会津若松市立第四中学校　古川　真弓
- **中学校教育60年記念教育功労表彰**
  - 元会津若松市立第一中学校長　齋藤　常修
  - 元会津若松市立第四中学校長　笹川　征喜
- **教育者表彰**
  - 前会津若松市立謹教小学校長　星　恵隆
- **学校給食「共同調理場」**
  - 磐梯町学校給食共同調理場
- **地域文化功労表彰**
  - 関谷　浩二（会津若松市）
  - 会津美里町高田ペンクラブ
- **優良PTA表彰**
  - 会津若松市立城南小学校PTA
- **生涯スポーツ功労表彰**
  - 小田　典正（会津若松市）
- **体育指導委員功労表彰**
  - 阿部　輝男（喜多方市）
- **全日本学校歯科保健優良校表彰**
  - 三島町立三島小学校

独立行政法人日本スポーツ振興センター
- **学校安全優良校**
  - 猪苗代町立翁島小学校

県文化振興基金顕彰
- 松川善之助（会津若松市）
- 三島神社太々神楽保存会（喜多方市）

県教育委員会表彰
- **地方教育行政功労者**
  - 前会津坂下町教育委員会教育長　高久　庄三
- **学校教育功労者**
  - 会津若松市立第二中学校長　日下　幸雄
- **優秀教員**
  - 会津若松市立謹教小学校教諭　渡部　尚美
  - 会津若松市立第五中学校教諭　小野　香織
- **保健体育功労者**
  - 会津若松市立日新小学校学校薬剤師　中村　光雄
- **保健体育功績顕著な団体・施設**
  - 喜多方市立松山小学校
- **社会教育功労者**
  - 新井田高喜子（会津若松市）
- **社会教育功績顕著な団体・施設**
  - 会津坂下町金上公民館
  - 三島町婦人会
- **功績顕著な文化団体・施設**
  - 会津書作家協会（会津若松市）
- **文化財功労者**
  - 遠藤良二（金山町）
- **地球温暖化防止のための「福島議定書」事業表彰**
  - 最優秀校（県知事賞）
    - 西会津町立西会津中学校
  - 入賞
    - 喜多方市立熱塩小学校
    - 湯川村立笈川小学校
    - 会津若松市立第二中学校
- **朝食欠食率ゼロ週間運動表彰**
  - 優秀校
    - 会津美里町立本郷第一小学校

県学校給食優良団体・功労者表彰
- 主任栄養技師　石井直子（会津若松市立城南小学校）
- **学校給食優良団体**
  - 会津若松市立神指小学校

県学校歯科保健優良校表彰
- **優秀賞**
  - 会津若松市立河東学園小学校
  - 喜多方市立第一小学校
  - 喜多方市立熊倉小学校
  - 喜多方市立姥堂小学校
  - 喜多方市立山都第二小学校
  - 湯川村立勝常小学校
  - 三島町立三島小学校

県学校安全優良学校・功労者表彰
- **学校保健功労者**
  - 会津若松市立第五中学校学校薬剤師　宮森　葉月
  - 喜多方市立第三中学校学校医　猪俣　長典
  - 会津美里町立本郷第一小学校長　大野　正雄

県教職員研究論文入賞者
- **入選**
  - 会津若松市立謹教小学校教諭　岩本　宏幸
  - 会津若松市立城西小学校教諭　国所　貞之

県学校関係緑化コンクール表彰
〈学校林等活動の部〉
- **県林業協会会長賞**
  - 喜多方市立高郷小学校

〈学校環境緑化の部〉
- **教育長賞**　会津美里町立永井野小学校
- **県林業協会会長賞**
  - 北塩原村立裏磐梯小学校
- **福島県森林組合連合会会長賞**
  - 会津若松市立川南小学校
  - 会津若松市立湊小学校

磐梯町　就学前教育と小学校との連携推進のあり方

本町では、平成１７年度より３年間、県教育委員会の指定を受け「就学前教育と小学校との連携推進のあり方」について、１幼稚園と２小学校が連携をして取り組んできた。連携推進に当たっては、研究のテーマを「子どもの発達や学びの連続性の円滑な接続を目指して」とし、以下の３つの視点で研究を進めてきた。

【子どもの交流】

園児と児童の交流活動を年間計画に位置づけて実施した。５歳児と１年生では、「あつめたあきであそぼう」の学習で、公園での秋探しで見つけた材料を使って遊ぶおもちゃを工夫して作った。その他、２年生との「生き物探し」、体験入学での学校案内等の活動から、年下の子への思いやりや小学校生活への期待感をもつことができ、それぞれが楽しく充実した活動を行うことができた。

【教師の相互理解】

幼稚園と小学校との連携で、子どもの学びの円滑な接続を図っていくためには、教員自身が互いの学校・園の子どもや学びを理解することが大切と考え、授業参観、Ｔ・Ｔによる指導・支援の体験等を計画的に行った。回を重ね、多くの先生が体験したことにより、これまでの子どもの経験やこれからの子どもの学習を考えて指導しようとする意識が、教員自身に育ってきた。

【接続期のカリキュラムの連携】

子どもの「言葉」の発達の連続について、幼稚園での言葉かけや会話の洗い出し、小学校での言語指導の分析を行った。豊かな言語活動を進め、言葉の発達を促すための言葉かけや活動の設定について計画的に進められるようになり、子どもたちの会話や活動も活発なものになってきた。

喜多方市立第三中学校　いのち生きいきプロジェクト推進協力校として

いのち生きいきプロジェクト推進協力校として、２年間にわたり保健体育科だけではなく、養護教諭やクラス担任の先生と連携し、学校全体として組織的に取り組んできた。２年目にあたる今年度は、昨年の結果も踏まえて、「性感染症やエイズの現状や原因について正しく理解させる」「異性を思いやる心をたがやす」の２点をねらいとして、授業を実践した。以下に、その実践内容と成果について示すこととする。

（１）性感染症やエイズについての正しい理解

- 事前に行ったアンケートの結果、性感染症等に対する知識が乏しく問題意識も低いことがわかった。そこで、パワーポイントやビデオなど視覚教材を活用し、最新のデータで世界と日本の現状を伝えるとともに、福島県と会津域内の比較を通して考えさせた。より身近な自分たちの問題として捉え、正しい知識を持つことができた。
- 養護教諭とＴ・Ｔ指導を行うことによって、エイズや性感染症の怖さに気づかせることができ、授業後の個別指導にも生かすことができた。このことを通して、養護教諭との連携をさらに深めることができた。

（２）異性を思いやる心をたがやす

- 最初に学年オリエンテーションを行い、養護教諭と授業者の生きてきた半生を振り返ることによって、自己を見つめ直すところから始めた。つぎに、ロールプレイングで男女の付き合いについて考えさせることなどにより、性に対するイメージを大きく変えることができた。
- 授業の最後に、ある生徒の親から子どもへの手紙を読むことを通して、自分を大切に思ってくれる人がいることを実感させることができた。また、相手にもたくさんの人が関わり支えられていることを確認させることができた。

心に残る人々

会津坂下町教育委員会教育長
堀　幸一郎

「オレ肺ガンなんだよ。」電話をとると彼が言った。「さびしいんだ。セキとサカノを連れて、来てくれよ。」代わった奥様も「わがままを申します。お願いします。」

江ノ電湘南海岸公園駅近くの自宅に帰っていた彼は、その日は駅まで歩いて私たちを見送ったが、ほどなく逝ってしまった。

不器用なやり方で不条理な社会に立ち向かった生涯だった。大学卒業後すぐ、彼は学童保育を始めた。自宅の庭に常緑樹の巨木があって、横枝にブランコをかけ、木陰にゴザを敷く。それだけで働く親を持つ子どもたちが集まった。１９７０年代初めのことである。

子育て支援のために役所や事業所にかけあい、地域の協力を求めた。しかしもっとも大切にしたのは保護者と語り合う時間だった。夜も昼もなく、だから職業らしい職業には就かず、奥様が家計を支え、趣味の（仕事にも欠かせなかった）オートバイを買ってあげた。

葬儀は無宗教で行われ、カザルスが弾く『鳥の歌』が流れた。孫娘が「ジイジイさようなら」とお別れをした後は、老若男女の人々が次々とマイクを握り、彼との思い出を語った。熱気があふれ、かつての学生運動の集会を彷彿させた。「何がさびしいものか。」サカノが憮然とし、セキが「オレらには甘えたかったんだ。」と応えた時、奥様が「私もさびしかったのです。」とかすかにほほえんだ。この春が三回忌である。

地域に学ぶ

「地域とふれあうボランティア」

会津美里町教育委員会（旧新鶴村）

青少年ボランティアグループ「ヤンボラにいつる」は、新鶴地域の小・中・高校生４８名で組織され、地域に根ざしたさまざまなボランティア活動を展開しています。『地域のために　自分のために、できるときにできることを！』をモットーに、月1回程度公民館や公共施設などに集まって活動しています。

年末には、新鶴地域に住む一人暮らしのお年寄りに年賀状を送っています。「お体に気をつけていつまでもお元気で。」など、子どもたちが書く言葉には思いやりの心があふれています。また、お年寄りからは、感謝の気持ちを込めたお礼の年賀状が届きます。お年寄りにたいへん喜ばれている活動であり、子どもたちとの心の交流となっています。

このほかに商工会女性部との「新鶴駅の清掃・花壇整備」、高齢者学級との「花植え活動」、かわいい後輩のための「幼稚園清掃」など、地域との連携を大切にして活動する中で、子どもたちは、思いやりの心、郷土を愛する心、豊かな人間性や社会性を育んでいます。

これからも、「ヤンボラにいつる」では、ボランティア活動を通して地域の人々とのふれあいを大切にし、たくさんの心の交流を図っていきたいと思っています。

学校教育相談事業より

「不登校の改善に向けて」

不登校の相談は、中学校で大変多い。中学校の相談数の７３％を占める。不登校の原因は、「対人関係」・「環境への不適応」など、複数の要因が絡みあっている。また、小学校の不登校傾向の児童が、中学校の環境変化に適応できず、不登校に陥る傾向が見られる。保護者は、不登校の原因が甘やかし・放任など、養育姿勢に問題があると感じても改善できず、どうしてよいか迷っている状況である。

まず、担任は、子どもの日常の変化を見逃さず、保護者との連絡・相談を積極的に進めることが大切であり、登校渋りの兆しがあれば原因を探り、保護者・子どもとの信頼関係を深め、学校全体の支援体制で方策を練ることが肝要である。

教育相談員は、学校訪問相談・電話相談・来所相談・移動教育相談を実施している。悩みを持つ保護者や教師に対し相談しやすい機会や場を提供し、学校や関係機関との連携を図りながら、不登校改善の支援に当たっていきたい。

学校教育相談員　山内嘉夫

作品と指導

工作

『思い出の陸上記録会』

三島町立三島小学校
6年 石岡成予

三島町の桐を使い、小学校の思い出を立体に表現しました。材料の特徴に合わせて、用具を工夫して使い、角材を削ったり、みがいたりしながら、自分の思いを表現できるように指導しました。

指導者 長峰 健

習字

『深い友情』

猪苗代町立長瀬小学校
6年 渡部衣里奈

小学校の書写学習のまとめとなる作品です。文字の組み立てや字配りなどに気をつけて書くよう指導しました。また、力強さを表せるように、画の太さや筆の動かし方等についても意識させながら仕上げました。

指導者 渡邊志乃

絵

『静物』

喜多方市立高郷中学校
1年 齋藤翔太

1年生は、春先のスケッチのトレーニングをふまえて、静物画に取り組みました。

対象のもつ形や色の特徴を新鮮な目と心でじっくりと観察してとらえさせるとともに、質感等の表現のコツを助言し、立体感のある作品になりました。

指導者 芝田俊久

私の抱負

「群生っ子」と共に

西会津町立
群岡小学校
校長 新井田庄次

群岡小学校に赴任以来、早十一ヶ月が過ぎようとしています。この間、四十五名の「群生っ子」に多くの感動を受けました。着任式での大きな歌声、水泳・陸上大会でのすばらしい活躍の姿、特別支援学級の子どもが毎日毎日転びながら練習し遂に一輪車を乗りこなした姿、わくわくチャレンジ発表会での各学年の心に浸みる発表等、心に深く残る『感動』に溢れた十一ヶ月でした。まさに、目指す「自分をみがき高める子ども」へ一生懸命に取り組む姿でした。

今後「群生っ子」がさらに大きな夢を持ち、健やかに育つように、「群生っ子」と共に学び、共に育つ教師集団として、常に「子どもの目線で」を合い言葉に、学校経営にあたっていきたいと思います。

初心を忘れず

会津若松市立
第五中学校
教諭 浅野理恵

教諭として若松五中に赴任して、もうすぐ一年が過ぎようとしています。期待と不安の入り交じった気持ちで挨拶をした始業式はまるで昨日のことのようです。

初めての担任、初めての部活動顧問、初めての授業…初めて尽くしの毎日でした。次に何が待ちかまえているのかわからず、一日一日を無我夢中で過ごし、ふと気がつけばもう三学期です。

この一年間を充実して過ごすことができたのは、生徒たちの明るい笑顔と温かく見守って下さった諸先輩方の励ましやアドバイス、そして何より家族の支えがあったからです。これからの長い教員人生、今の感謝の気持ちを忘れずに、常に成長し続けられる人間でありたいと思います。

中高連携の先にあるもの

福島県立
会津学鳳中学校
教諭 田中幹大

会津学鳳中学校に着任して早一年。中高連携を意識して学校作りに携わってきた。高校勤務の経験から、中学校の授業、部活動や学校行事などを、高校の視点でとらえ、意見し、実践してきた。日々学びと格闘の連続だった。

発達段階の差はあれ、教育の本質は中学校も高校も変わらない。手段が違うだけである。お互いをもっと知ろうとし、議論し、ぶつかり合い、良い点を取り入れ、新たなものを作り出していく姿勢が大切だと思う。中高一貫教育校では、六年間のシステム作りが求められる。中高の枠を外し、教育を再構成できる魅力とその効果は非常に大きい。

中高連携は生徒たちの夢を拓かせるためにあるもの。その視点を忘れずに日々精進したい。